

令和5年度 <教職員向け自己評価表のまとめ>

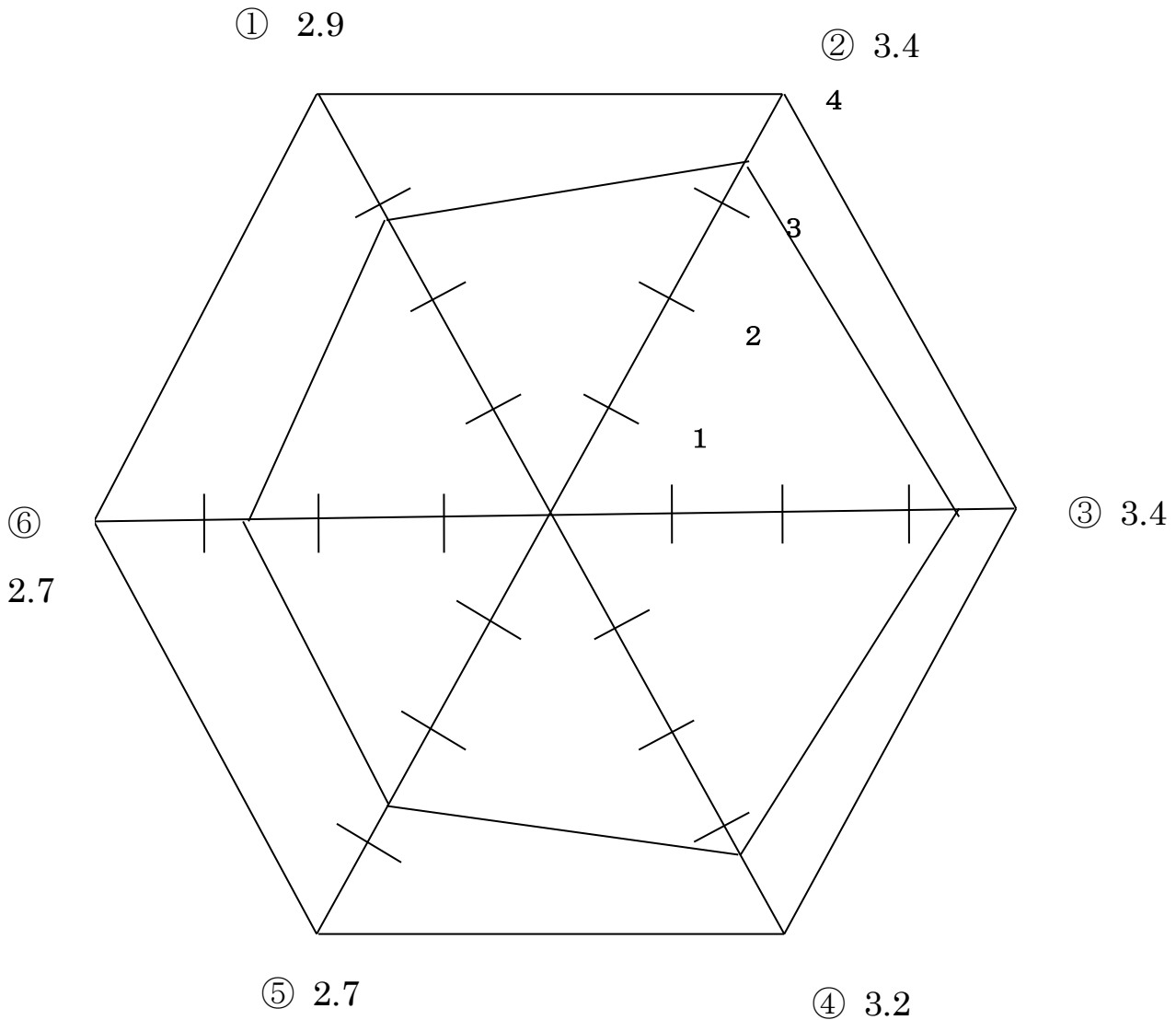
長岡天徳・聖徳幼稚園 組(担任・副担任・補助・給食・事務・バス) 年齢別担当(0・1・2・3・4・5) 氏名

(評価例) 4…よくできている 3…まあまあできている 2…あまりできていない 1…全くできていない

評価項目	内容	評価	課題と今後の解決法	
① 保育の計画性	園の理念・教育要領・教育課程	●園の理念や精神や理念、教育目標を理解している	3.2	●園の理念にもとづいての保育を職員間での話し合いを通し充実させていく。 ●子ども一人ひとりが主体的に活動出来る環境作りをしたい。 ●自然と関わり、季節ならではの活動が出来る様、子どもの思いを見通し遊び込める工夫をする。
		●教育要領を読み、園理念の理解とあわせて園長や保育者と話し合う	3.6	
	環境構成	●指導計画は、教育要領・教育課程そして幼児の実態に即して作成し、周囲の状況や変化に対応できるものとしている	3.3	
		●指導計画に基づいた安全で安心感、清潔感のある環境を構成する	3.4	
		●幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具に配慮し、必要な数量を用意する。	3.1	
評価・反省	●幼児の発達を見通し、より豊かな活動が展開できるような環境を再構成する	3.1		
	●園内外の自然への理解や、季節の変化に応じた環境の構成をする	3.1		
② 保育のあり方 幼児の対応	健康・安全	●自己の保育についての評価・反省をさまざまな観点から行う	3	●保育の振り返りを個人のところで終わらせず、全体で話し合いをする事も良い事であると感ずる。 ●毎日の保育の中に“慣れ”という怖いものがある。常に緊張感を大膽にし、ケガ事故防止に努める。 ●一人ひとりをよく見守り、理解し、成長発達へと繋げる(子どものささいな言葉に耳を傾けたい)
		●園内から園外の危険箇所を配慮する	3.6	
		●毎日の園児の健康視察を大切にす	3.6	
	幼児理解	●事故や怪我が発生した場合は迅速に適切な処置を行う	3.5	
		●幼児一人ひとりをよく観察し、幼児の思いを受け止める	3.4	
指導	●幼児同士のかかわりの姿から、個々の成長発達をふまえ、見通しをもって理解する	3		
③ 保育者の資質・能力	姿勢能力 職務 組織	●幼児の思いや考えに共感し、受け入れる	3.3	●一人ひとり発達が違う、その事を理解すると共に職員間での共通理解の必要性を感じる。 ●教師としての言動を改めてみなおす。 ●よりよい保育。子どもの成長発達には、職員間の信頼関係がより豊かになる様にもっと話し合いたい。 ●言葉という表現手段は簡単ようでとてもむずかしいものである。言葉は相手があつての物である。慎重に相手を思う気持ちでかかず事が出来る努力をしたい。 ●保育者としての感性が高まる勉強していく。
		●規範意識・道徳性を培ううえで、モデルとなるよう心がける	3.3	
		●幼児の年齢・発達に応じた指導や援助をする	3	
		●ふさわしい清潔感のある服装、髪型、身だしなみを心がける	3.7	
		●職務上の情報等の秘密を守護する	4	
④ 保護者への対応	対話 交流 クレーム対応	●社団法人の常識をわきまえ、行動する	3.4	●保護者から話しているが、うまく伝える事が弱い、しっかり受け止め相手を思う気持ちで対応する。 ●クレーム対応は職員全員で共有する。 ●安心して預けていただける様な雰囲気作りを心がけたり、教師としての資質を伸ばせる様勉強する。
		●教職員組織の協調性を大切にし、チームとしての自覚をもつ	3.5	
		●率直な意見交換を行い、組織内の問題の共有化に努める	2.8	
		●当番や役割意識など、課せられた仕事は確実に実行	3.6	
		●保育者としての感性・教養を深める	3.1	
⑤ 地域・自然 人とのかかわり	地域・自然 小学校との連携 子育て支援 地域への開放	●保護者への対応に共通の心で伝える	3	●園外保育、散歩等を充実させ、もっと自然に触れる様に活動を見直しする。 ●地域の人との交流について、職員間で話し合い一回でも活動できるようにする。 ●子育て支援を通し、就園前のお母さんと話すことを通し保育の悩み、ストレスが取り除かれる活動としていきたい。 ●自己課題を持つ事は保育の善し悪しに影響する ●自己課題を持つことの大切さを知り子どもの成長発達の援助(指導)につなげる。
		●保護者からの相談や要望をよく聞くように心がける	3.4	
		●保護者との対応には公正さを信条とし、保育時間外でも誇りと自覚をもった言動・行動を心がける	3.3	
		●電話での対応は、わかりやすく真摯な対応に努める	2.8	
		●保護者からの話で、自分で判断出来ない場合は、園長主任等に報告、連絡、相談をする	3.7	
⑥ 研修と研究	研修・研究への意欲・態度	●クレームの内容によっては教職員組織全体で共有化し、共通理解のうえで対応する	3.5	●研修の機会が少ないから自分のスキルが上がらないのがなく、保育を振り返り、みんなで共有する中からも充分向上できると考える。もっと問題点を提起し話し合いの場を持つ努力をする。 ●研修で学んだ事を保育におおせる様、学んだ事をみんなで周知することをもっと充実させたい。 ●受けたことのない分野もどんどん学んでいきたい。 ●勉強、研修は他の人が与えてくれるものではなく自分みずから進んで行うものである。 ●幼保小連携の必要性の理解をもとに、まだ一部のみ教師だけのものもある。もっと全員で深める必要がある。 ●危機管理の重要性をもっと職員間で周知し深め常の保育にあたる
		●研修会や研究会には自己課題をもって積極的に参加する	2.8	
		●自分の保育について自己課題をもって研究を行う	3	
	保育者としての専門性に関する研修・研究	●自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	3.1	
		●幼児の発達に必要な知識を学び、現場に生かす研修・研究を行う	3.1	
		●記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	2.2	
		●教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	2.3	
		●実践に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	1.9	
		●幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	2.9	
		●保護者への対応に関する研修・研究を行う	2.6	
今日的課題に関する研修・研究	●地域社会との交流に関する研修・研究を行う	2		
	●組織内の協力・連携に関する研修・研究を行う	2.5		
	●アレルギー、成長の遅れ、問題のある幼児について理解する	3.3		
	●預かり保育や子育て支援について研修する	2.4		
研修・研究	●幼小連携の必要性や具体的方策について研修する	2.2		
	●子どもたちの安心・安全に関する、危機管理の必要性と対応について研修する	2.7		
	●社会情勢について関心をもち、研修する	2.6		

令和5年度 <<自己評価項目のまとめ>>

認定こども園 長岡天使聖母幼稚園



総合所見と来年度の課題と目標

- ・全体を通し地域との関わりがあまり出来ていない。地域の人との関わりはこちらからのアプローチを主に考えなければいけない点である。
- ・保育者の資質向上には取り組んでいますが、自分から率先して研修に出向き、園内での職員間での問題提起による話し合いの中からも学べる事が出来ると考えられる。研修は人が与えてくれるものではなく、自主的に行えるよう配慮する。
- ・仕事は仲間で話し合いフォローをしいながら行っていく。